GOD WITH US

Part 9: ACTS

Message 4 – Paul's First Journey

Acts 12:1-15:35

神は我らと共に

パート９：使徒の働き

第４メッセージ：パウロの初めての伝道旅行

使徒の働き１２：１－１５：３５

はじめに

使徒の働き第１章８節では、使徒の物語が３段階に展開していくのを見て来ました。第一段階は、エルサレムにおける伝導（使徒第１－８章）、第２は、ユダヤとサマリアにおいての宣教（使徒第９－１２章）、そして、第三は、より広いローマ帝国への伝導である（使徒第１３－２８章）。使徒の働きの第１３章から終わりまでは、より広いローマ帝国へ福音を伝えるために、３回の主要な伝道旅行に着手する。しかし、パウロが中心的な役割を果たす前に、すべての始まりであるエルサレムの町の使徒たちに何が起こっていたかを見ていきましょう。

ヤコブの死とペテロの脱出：使徒１２：１－２５

そのころ、ヘロデ王は教会のある者たちに圧迫の手をのばし、ヨハネの兄弟ヤコブをつるぎで切り殺した。そして、それがユダヤ人たちの意にかなったのを見て、さらにペテロをも捕えにかかった。それは除酵祭の時のことであった。（使徒の働き１２：１－３）。

ヤコブは、政治的な理由で殺された：ヘロデは、過越祭（「無発酵パン祭り」）の週に、ユダヤ人のためになることを望んだ。それによってユダヤ人を喜ばせたとき、さらにペテロを死に追いやる決心をしたが、ペテロは天使によって奇跡的に刑務所から釈放された。ペテロは、幻を見ていると思ったが、それが現実であると気づいたとき、クリスチャンが祈りのために集まっていた家に直行した：

ペテロはこうとわかってから、マルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家に行った。その家には大ぜいの人が集まって祈っていた。（使徒の働き１２：１２）

初期の教会は祈りの教会であった。始めから終わりまで、活動全体は、絶え間ない祈りに浸っていた。また、重要な「祈りの家」は、ヨハネ・マルコの母であるマリア（後にマルコの福音書の著者）に属していた様である。

エルサレムのマリア：

シャーリーからのコメント

マリアの家がエルサレムにあったことについては、聖書の中で一度しか言及されていないが、彼女の模範と影響はそこに留まらなかった。使徒の働き第１２章１２節は、マリアがヨハネ・マルコの母であり、イエスの若い弟子、マルコの福音書の著者であると述べている。またマルコは、マリアの親戚であるバルナバの若いいとこでもあった。マリアの夫は、おそらく亡くなり、残された家を伝道のために用いることを選んだ。マリアは、ローダという名前の女の使用人を持つ程、裕福であった。信者たちが密かに集まって、祈りの集会を開くのには十分大きかった。イエスは、マリアの家で「最後の晩餐」を行ったと、多くの人々は信じている。

マリアは、心を開き、家を開放した。そのもてなしは、激

しい迫害があったときにも、安全な場所を提供した。法律に反して、密かに用いられていることを許したために殺害される可能性もあったことから、マリアは寛大で勇敢な女性であることがわかる。

使徒の働き第１２章１－１７節　ヘロデ王は、信者たちを脅し、その動きを止めるためにヤコブを殺した。ペテロが次に殺されることになっていた。ヘロデは、ペテロを閉じ込めることは出来たが、マリアの家に集まった信者たちの祈りを阻止することは出来なかった。彼らは熱心に礼拝し、ペテロを救うために、神の御顔と力を求めた。神が祈りに答えて下さる保証は無かったが、聖書は、悪を打ち負かし、不可能を行うという神のご計画において、いかに熱心な祈りが用いられたかの例を示した！

神は、奇跡的に祈りにお答え下さり、ペテロがみ使いによって刑務所から連れ出された後、信者たちがマリアの家に集っていることを知っていた。ペテロが現れたとき、信者たちは、非常に驚いた。神がペテロを刑務所から連れ出して下さるために、天使を送って下さったという驚くべき詳細を聞いて、彼らの信仰は更に強化されたことでしょう。ペテロは夜明け前にエルサレムを去らなければならなかった。

マリアは、ローマ人への手紙第１２章１３節で、もてなしの実践を命じられた模範である。彼女は、「楽しませよう」としたのではなく、ただ、家を開放した。祈るために安全な場所があったからこそ、彼らの祈りがきかれれた。マリアの家は、多くの奇跡や人生の変化についての物語を生み出すために用いられた。マリアの息子マルコは、信者の例と祈りへの情熱の影響を受けた。

マリアの様に、私たちの子供たちが世界中の多くの信者に会うことが出来た機会に感謝します。お陰で、彼らも、おもてなしを実践している。あなたの家やアパートをスモールグループの集会の場として提供されたことのない方は、是非やってみましょう。過去４０年間にわたり、私たちは多くのグループを主催してきました。私たちの家は「完璧」でも「見せびらかすための家」でもありません！ ただ、イエスのお名前のもとに集まる場所であるだけです。

ヘロデ王の死：使徒の働き１２：１９－２５

この章の終わりに、エルサレムにおいての出来事を振り返りながら、ルカは教会の迫害者であるヘロデ王の死について語っている。 世俗的な歴史は、ヘロデが耐え難いほどの痛みを伴う内部疾患で死んだことに注目し、ルカの説明を裏付けている。 ヘロデのあっけない終焉とは、まったく対照的に、ルカは次の様に章を閉めくくっている。

こうして、主の言はますます盛んにひろまって行った。（使徒の働き１２：２４）。

世界が福音の広がりを阻止するために、いかに働きかけても、神の御霊は、イエスの名が地上の果てまで届くことを確実にされる。 それは止められない動きである。 この霊的な物語から、忠実に祈る信者たちは、イエスが「目に見えない」状態で働いておられたと確信していたと知ることによって、勇気がもらえる。 世俗的な支配者は、ヤコブの死で勝利していたかの様に見えたが、最終的に、神がヘロデを対処された。 私たちが置かれている状況の中で、神に信頼を置き、神が働いて下さっっているということを信じる必要がある。

御霊に選ばれたパウロとバルナバ：使徒の働き１３：１－３

異邦人によるアンテオケ教会にて、すでにパウロは、バルナバとの共同牧師を務めていた傍ら、「異邦人への使徒」としての出現は、アンテオケの指導者たちの集会の祈りの中で始まった。

一同が主に礼拝をささげ、断食をしていると、聖霊が「さあ、バルナバとサウロとを、わたしのために聖別して、彼らに授けておいた仕事に当らせなさい」と告げた。そこでは、断食と祈とをして、手をふたりの上においた後、出発せた。（使徒の働き１３：２，３）

祈りは、使徒の働きの福音の進行において、大きな役割果たしている。「礼拝と断食」は、彼らから学ぶべき２つの例である。礼拝は、神が誰であるかに焦点を当てて、神が望んでおられることすべては、ご自身によって成し遂げられることが可能であると宣言している。「断食」（否定と依存の姿勢）は、ユダヤ人の一般的に実践して来たことであり、クリスチャンもそれを継続した。キリスト教徒たちは、次の様なときに礼拝し、祈った：迫害に直面しているとき、御霊の導きを求めるとき、神からの奇跡が必要なとき、最初の宣教師を派遣するとき、屋上に座っているとき、獄中にいるとき、船で航海しているとき・・・とにかく、あらゆる状況で礼拝し、祈った。彼らの模範はイエスであった。イエスは、地上における伝道中、天の御父からの祈りと導きを求めるために、毎朝、早起きして祈られた。

オークポイント教会は、使徒の働きのクリスチャンの例から、「祈り」を弟子の８つの重要な特徴の一つとして、選んだ。 祈るとき、まず、賛美をするか聖句を用いて神に「礼拝する」ために時間を割きましょう。 第二に、「嘆願」に目を向ける。私たちの必要を満たしていただくために、神に求めましょう。 状況によっては、断食を検討することもある。自分が楽しんでいるもの、または食べ物から自分自身を断ち切ることである。 最後に、神がすでにあなたの人生に現れて下さった事柄のために、常に祈りを通して感謝しましょう。 どうすればオークポイント教会の祈りの生活に、もっと関わることが出来ますか？ どうすれば、さらに祈りを生活やライフグループの一部に取り入れることが出来ますか？

キプロス島における伝道：使徒の働き１３：４－１２

バルナバは、キプロス島出身であったので、パウロとバルナバは、先ずキプロス島に行った可能性がある（使徒４：３６）。ヨハネ・マルコは、二人の助手であった。伝道活動の間、バルナバもヨハネ・マルコも、パウロの戦略に従った。あらゆる新しい都市で、シナゴーグを見つけ、「真っ先にユダヤ人のところに向かい」、安息日（土曜日）に数回福音を提示した。イエスを信じるシナゴーグの人々は、そのコミュニティの中で、新しい「教会」の核を形成し、定期的に集まり始めた。（クリスチャンは、キリストの復活の日を記念して、礼拝の日を日曜日に移した。）

権力との遭遇は、初期の教会の伝道活動を拡大していく中で、よくあることであった。ピリポは、サマリアの魔術師シモンの力に打ち勝った（使徒の働き８：９－１３）。パウロは、後にエペソの魔術の力に挑む（使徒の働き１９：１１－１６）。パウロとバルナバは、ユダヤ人の魔術師であり、キプロス島の総督であるセルギウス・パウルスの顧問、「エリムス」またはバル・イエスと名付けられた偽預言者と力の鉢合わせをした。

ところが魔術師エルマ（彼の名は「魔術師」との意）は、総督を信仰からそらそうとして、しきりにふたりの邪魔をした。サウロ、またの名はパウロ、は聖霊に満たされ、彼をにらみつけて言った、「ああ、あらゆる偽りと邪悪とでかたまっている悪魔の子よ、すべて正しいものの敵よ。主のまっすぐな道を曲げることを止めないのか。見よ、主のみ手がおまえの上に及んでいる。おまえは盲になって、当分、日の光が見えなくなるのだ」。たちまち、かすみとやみとが彼にかかったため、彼は手さぐりしながら、手を引いてくれる人を捜しまわった。総督はこの出来事を見て、主の教にすっかり驚き、そして信じた。（使徒の働き１３：８－１２）

邪悪な霊的力は実在する。それらの影響を最小化してはならない。パウロは、次の様に記している：**「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである（エペソ６：１２）。」**それでも、私たちには保証がある：**「子たちよ。あなたがたは神から出た者であって、彼らにうち勝ったのである。あなたがたのうちにいますのは、世にある者よりも大いなる者なのである（第一ヨハネ４：４）。」**イエスは弟子たちのために祈られた。**「彼らを悪しき者から守って下さい（ヨハネ１７：１５）。**あなたがイエスとの歩みにおいて、反対や他者からの敵意に直面したとき、神に頼み、目に見えない霊的対立の世界で働いているかもしれない悪の力を打ち負かしていただくよう求めましょう。

ピシディアン　アンテオケにおける伝道：
使徒の働き１３：１３－５１

チームは、キプロス島から本土へ向かった（北へ１００マイル）。何らかの理由で、ヨハネ・マルコ（助手）は、チームを離れて帰宅した。パウロとバルナバは、ガラテヤと呼ばれる地域で、ピシディアン　アンテオケ（注：シリアン　アンテオケとは異なる）への旅を続けた（ガラテア地方に植えられた教会は、後にパウロによる「ガラテヤ人への手紙」を受け取る）。彼らの習慣に従って、安息日にシナゴーグに入り、説教を依頼されたパウロは、神は、お約束を守られる神であること、特に「救世主」を送られるというイスラエルとのお約束を成就されたことについて説教した。パウロは、永遠に王座に座るために、ダビデの息子の一人を用いるという神の約束に焦点を当てながら、ユダヤ人国家の歴史を振り返った。そして、パウロは、イスラエルがイエスを拒絶したが、神はイエスを死からよみがえらせた：

わたしたちは、神が先祖たちに対してなされた約束を、ここに宣べ伝えているのである。神は、イエスをよみがえらせて、わたしたち子孫にこの約束を、お果しになった。（使徒の働き１３：３２，３３）。

それから、イエス・キリストを信じることによってもたらされる赦しを彼らに提供した：

だから、兄弟たちよ、この事を承知しておくがよい。すなわち、このイエスによる罪のゆるしの福音が、今やあなたがたに宣べ伝えられている。そして、モーセの律法では義とされることができなかったすべての事についても、信じる者はもれなく、イエスによって義とされるのである。（使徒の働き１３：３８，３９）。

神の律法は聖なるものであり、正しいものであり、良いものである。 誰にも神の基準を満たすことは不可能である。 実際、神の律法を学ぶとき、誰もが神に受け入れられるための

基準に満たないことを認識させられる。最終的にパウロが気づいた様に、人間に測れる「良さ」では「十分」でない。しかし、私たちが及ばないことを認め、完全に神でありながら、完全に人であるキリストに救い主となっていただくことを必要とすると認めるとき、神の恵みと赦しは、私たち一人一人に与えられる。パウロが、それぞれの町で、人々に勧めた様に、イエス・キリストによって、支払われた神の救済を未だ受け入れておられないなら、ただイエスを信じましょう。イエスは、罪のない人生を送られ、あなたの罪の代価を全額支払って下さった唯一の人である。あなたは自力で神の赦しを得る事は不可能である。救いは、あなたへの神からの優雅な贈り物である！

パウロとバルナバは、シナゴーグへの最初の訪問で好評を得たので、次の安息日の講演にも招待された。二度目の訪問で、ルカは、「主のみ言を聞くために」ほぼ都市全体が集まったと記している。それでもなお、地元のユダヤ人指導者たちから強い抵抗にあった。

次の安息日には、ほとんど全市をあげて、神の言を聞きに集まってきた。するとユダヤ人たちは、その群衆を見てねたましく思い、パウロの語ることに口ぎたなく反対した。（使徒の働き１３：４４，４５）。

それから、パウロはその地域の異邦人に注意を向け始め、幅広く受け入れられたが、さらなる反対にも直面した。

こうして、主の御言はこの地方全体にひろまって行った。ところが、ユダヤ人たちは、信心深い貴婦人たちや町の有力者たちを煽動して、パウロとバルナバを迫害させ、ふたりをその地方から追い出させた。ふたりは、彼らに向けて足のちりを払い落して、イコニオムへ行った。弟子たちは、ますます喜びと聖霊とに満たされていた。（使徒の働き１３：４９－５２）。

イコニオムへの伝道：使徒１４：１－７

イコニオムにおいての伝道は、ピシディアン　アンテオケの伝道と同様のパターンに従った。多くのユダヤ人と異邦人は、その後イエスを信じたが、ユダヤ人指導者たちからは、激しい反対が起こった。パウロとバルナバは、そこでかなりの時間を費やし、キリストを証し、奇跡を行ったが、最終的に前進することを余儀なくされた：

そこで町の人々が二派に分れ、ある人たちはユダヤ人の側につき、ある人たちは使徒の側についた。その時、異邦人やユダヤ人が役人たちと一緒になって反対運動を起し、使徒たちをはずかしめ、石で打とうとしたので、ふたりはそれと気づいて、ルカオニヤの町々、ルステラ、デルベおよびその附近の地へのがれ、そこで引きつづき福音を伝えた。（使徒の働き１４：４－７）。

リストラとデルベにおいての伝道：使徒１４：８－２０

パウロの奇跡の能力のために、リストラの人々は、ギリシャの神々が町にやって来たと信じた！

群衆はパウロのしたことを見て、声を張りあげ、ルカオニヤの地方語で、「神々が人間の姿をとって、わたしたちのところにお下りになったのだ」と叫んだ。彼らはバルナバをゼウスと呼び、パウロはおもに語る人なので、彼をヘルメスと呼んだ。そして、郊外にあるゼウス神殿の祭司が、群衆と共

に、ふたりに犠牲をささげようと思って、雄牛数頭と花輪とを門前に持ってきた。「彼らはリカオニア語で叫んだ。「神は人間の形で私たちに降りてきた！」彼らはゼウスと呼び、ポールはエルメスと呼んだ。ゼウスの祭司は街のすぐ外側にいて、街の門に雄牛と花輪を持ってきました。彼とその群衆は彼らに犠牲を捧げたいと思ったからです。（使徒の働き１４：１１－１３）

彼らに崇拝されたパウロとバルナバは、神ではないこと、また、真の神の知識を広めるために、神に送られたことを群衆に伝えた。それから、突然の出来事の中で、群衆は考えを変え、手のひらを返し敵対的になった。

ところが、あるユダヤ人たちはアンテオケやイコニオムから押しかけてきて、群衆を仲間に引き入れたうえ、パウロを石で打ち、死んでしまったと思って、彼を町の外に引きずり出した（使徒の働き１４：１９－２０）。

石を投げられ、街から引きずり出され、殺されることが当時の使徒たちの代価であった。今日でも、イエスへの献身のために究極の代価を支払っている人々がいる。２０１９年４月１８日、イスラム教徒の牧師がナイジェリアの村で、子供の献児式と食事のために教会に集まった１７人のクリスチャンを殺害したと報じられた。もし、イエスを信じる信仰に迫害が殆どない時代と場所に住んでいるならば、それは稀なことであり特権である。あなたの影響力の範囲で、イエスの名をより広く知らせるために、あなたの特権的な状況を利用するために、何が出来るでしょうか？

シリアのアンテオケへ戻る：使徒の働き１４：２１－２８

パウロとバルナバがガラテヤ地方の都市の伝道の旅が終了した後、再び訪れたすべての都市に戻った！

その町で福音を伝えて、大ぜいの人を弟子とした後、ルステラ、イコニオム、アンテオケの町々に帰って行き、弟子たちを力づけ、信仰を持ちつづけるようにと奨励し、「わたしたちが神の国にはいるのには、多くの苦難を経なければならない」と語った。また教会ごとに彼らのために長老たちを任命し、断食をして祈り、彼らをその信じている主にゆだねた。（使徒の働き１４：２１－２３）。

各都市への二度目の訪問の動機は、生まれたての教会の安否と持続の可能性に対する真の関心であった。パウロ自身が直面した迫害の程度を考えると、彼らにとってもクリスチャンとして生きる事は困難であることを知っていた。彼らが「信仰に忠実であり続ける」ということが頼みであった。新しい信者たちが、それぞれの地域で成長するために、霊的指導者たちは、「祈りと断食」によって、支援した。私たちの教会では、どの様に「弟子たちを強め、励ます」ことが出来るでしょうか。おそらく、あなたも羊飼いとして、誰かを指導することが可能でしょう。または、ライフグループのために家を開放することが出来るでしょう。または、ミニストリーチームに加わり、あなたの奉仕を通して、教会の助け人となることが出来るでしょう。あるいは、今、試練と苦しみの只中におられるならば、あなたの困難な日に、神を信頼する姿勢をもって、他の人を励ますことが出来るでしょう。

最後に、パウロとバルナバは、アンテオケの本拠地に戻り、彼らの宣教旅行とその結果について報告した。

彼らは到着早々、教会の人々を呼び集めて、神が彼らと共にいてして下さった数々のこと、また信仰の門を異邦人に開いて下さったことなどを、報告した。そして、ふたりはしばらくの間、弟子たちと一緒に過ごした。（使徒の働き１４：２７，２８）。

エルサレム評議会：使徒の働き１５：１－３５

異邦人がクリスチャンになるという問題は、ユダヤ人信者たちが取り組んで来た課題であった。パウロとバルナバの初めての宣教で、パウロの教えに矛盾を訴える教師たちが、アンテオケに来たとき、この問題が浮上した。使徒の働き第１５章は異邦人問題を解決するための最初の「教会の議会」を記録している。

さて、ある人たちがユダヤから下ってきて、兄弟たちに「あなたがたも、モーセの慣例にしたがって割礼を受けなければ、救われない」と、説いていた。そこで、パウロやバルナバと彼らとの間に、少なからぬ紛糾と争論とが生じたので、パウロ、バルナバそのほか数人の者がエルサレムに上り、使徒たちや長老たちと、この問題について協議することになった。（使徒の働き１５：１，２）

この論争を解決するために、パウロとバルナバは、他の教会指導者たちとの会議のためにエルサレムに送られた。（注：生後８日目の男児の割礼は、神からアブラハムに与えられた命令であった創世記１７：１２）。ユダヤ教に改宗した異邦人は、従順と回心のしるしとして割礼を受けた。両側からの多くの議論の後、ペテロは立ち上がって、コルネリオの家への訪問を通して、神が異邦人のための扉を開かれたことを思い出させ（使徒の働き第１０章）、彼らの立ち位置を要約した：

しかるに、諸君はなぜ、今われわれの先祖もわれわれ自身も、負いきれなかったくびきをあの弟子たちの首にかけて、神を試みるのか。確かに、主イエスのめぐみによって、われわれは救われるのだと信じるが、彼らとても同様である」。（使徒の働き１５：１０，１１）。

パウロとバルナバは、異邦人の中で彼らを通した神の働きを語った。最後に、ヤコブ（イエスの「兄弟」、ヨセフとマリアの息子の一人、そして、今やエルサレム教会の指導者）が立って、最終的な決断を下した（記述された経験だけでなく、旧約聖書の預言にも基づいた異邦人に対する神の世話について）：

ふたりが語り終えた後、ヤコブはそれに応じて述べた、「兄弟たちよ、わたしの意見を聞いていただきたい。神が初めに異邦人たちを顧みて、その中から御名を負う民を選び出された次第は、シメオンがすでに説明した。預言者たちの言葉も、それと一致している。すなわち、こう書いてある、『その後、わたしは帰ってきて、倒れたダビデの幕屋を建てかえ、くずれた箇所を修理し、それを立て直そう。残っている人々も、わたしの名を唱えているすべての異邦人も、主を尋ね求めるようになるためである。世の初めからこれらの事を知らせておられる主が、こう仰せになった』。そこで、わたしの意見では、異邦人の中から神に帰依している人たちに、わずらいをかけてはいけない。ただ、偶像に供えて汚れた物と、不品行と、絞め殺したものと、血とを、避けるようにと、彼らに書き送ることにしたい。古い時代から、どの町にもモーセの律法を宣べ伝える者がいて、安息日ごとにそれを諸会堂で朗読するならわしであるから」。（使徒の働き１５：１３－２１）

それが最終決定であった - 異邦人は、クリスチャンになるた

めに割礼を通してユダヤ人になる必要はなかった。同時に、道徳的な理由（例えば、性的不道徳）やユダヤ人のクリスチャンの兄弟を害さないために（例えば、偶像に供えられた犠牲の食物や血を含む生肉。）、異邦人クリスチャンには、守るべきいくつかの制限があった。後にパウロは、ユダヤ人と異邦人クリスチャンとの間で、これらの同じ「つまずき」について記す（第一コリント８－１０）。

正式な手紙がエルサレム評議会によって発行され、異邦人教会に送られた。パウロとバルナバは、シリアのアンテオケに戻り、聖霊によって、さらに広範囲の宣教の旅に送り出されるまで、そこで伝道した（期間は特定されていない）。

討論のための質問

１．ヨハネの兄弟のヤコブは、ヘロデに殺され、ペテロは天使に助けられた。そのことから、私たち一人一人に対する神の特異で主権的なご計画について、何を教えていますか？

２．あなたがイエスの信者であるなら、あなたの人生で、聖霊が新しい任務を指示されたときの状況を思い出すことが出来ますか（バルナバとパウロが聖霊によって指示されたように - 使徒１３：１－３）。聖霊は、誰／どんな内面的興奮や状況を用いられましたか？

３．ヨハネ・マルコは、早くに、この伝道旅行から離れました。各都市においての困難や致命的な状況を考えると、あなたであったなら、どのくらい続いたと思われますか？

４．聖書は、バルナバが別の伝道旅行で、再びヨハネ・マルコを連れていったことを記録しています（使徒１５：３７－３９）。後に、使徒ペテロは、マルコを「息子」の様に世話をし（ペテロ第一５：１３）、そのマルコが後に記録した書物が「マルコの福音書」でした。そして最終的には、パウロでさえもヨハネ・マルコの価値について語っていました（第二テモテ４：１１）。そのことによって、あなたはどの様に励まされましたか？

５．神は、諸国民が私たちの地域にやって来るという特異な状況にオークポイント教会を置かれました。私たちの周りに住む国際的な人々に、私たちの成長するミニストリーに参加することによって、あなたはどのようにして諸国民への「宣教師」となることが出来ますか？